## 1.2 治水の沿革

大淀川は、大正 10 年に宮崎県事業として、本川上流部の都城市五十市町から都城市富城町までの区間、下流部の宮崎市富岡町から河口までの区間及び支川本庄川の綾北川合流点から本川合流点までの区間について改修計画を定めてその一部を実施しました。しかし、大正 15 年に内務省が改修計画に必要な調査を開始し、明治 19 年 9 月洪水及び大正 5 年 9 月洪水に鑑み宮崎地点における計画高水流量を 5,500m³/s と定め、昭和 2 年から国の直轄工事として本格的な改修に着手しました。この時の改修計画では、本川下流の宮崎市高岡町から河口までの区間及び本庄川の綾北川合流点から下流本川合流点までの区間について、築堤を主とした工事を計画し、宮崎市周辺の築堤を重点的に実施しました。

その後、昭和18年の大洪水を契機に、昭和24年に本川上流都城地区、本庄川の綾北川合流点から上流及び綾北川の治水上の主要な区域を国の直轄工事区間に含め、都城地区については、計画高水流量を樋渡地点において3,000m³/sとし、全川にわたり築堤、掘削等を実施しました。さらに、出水状況に鑑み、昭和28年に全川にわたり計画の再検討を行い、昭和18年9月洪水を主要な対象洪水として、計画高水流量を宮崎地点において7,000m³/s、樋渡地点において4,000m³/sにそれぞれ改定しました。しかし、昭和29年9月の台風12号により家屋の全・半壊及び床上・床下浸水約8,800戸、死傷者数15名の未曾有の災害による洪水が発生したため、この計画を再検討して、昭和39年に宮崎地点における基本高水のピーク流量を7,500m³/s、このうち岩瀬ダム、綾北ダム及び綾南ダムにより500m³/sを調節して計画高水流量を7,000m³/sとする計画を策定しました。この計画に基づき岩瀬ダムの建設、高木捷水路の開削、堤防の拡築及び護岸の設置等を実施しました。

大淀川の上流域は、霧島山などの火山噴出物が堆積した脆弱な地質を呈しており、土砂災害の発生が危惧されることなどから、昭和25年度より上流域の沖水川において直轄砂防事業に着手し、昭和48年度に完成しました。

また、昭和41年、43年、47年の度重なる災害を契機に、上流域の高崎川では昭和48年度より 直轄砂防事業を実施しています。

一方、河口部については、昭和58年に高潮堤防が概成しています。また、平成7年1月に発生した版神・淡路大震災の教訓を受け、地震に伴う基礎地盤の液状化により、堤防が沈下した場合の浸水による二次被害のおそれがある区間については、耐震対策を進めています。

さらに、過去の出水時において漏水が発生した箇所、及び地質条件等から漏水のおそれがある 区間については、漏水対策を実施しました。

こうした治水事業を展開してきたものの、昭和 57 年 8 月 (床上浸水 264 戸、床下浸水 463 戸)、 平成 5 年 8 月 (床上浸水 771 戸、床下浸水 784 戸)及び平成 9 年 9 月 (床上浸水 401 戸、床下浸水 584 戸)に計画高水流量と同程度またはそれ以上の洪水が発生し、甚大な浸水被害も頻発しています。

そして、これらの出水を契機に平成 9 年の河川法改正を受け、平成 15 年 2 月には基準地点

柏田における基本高水のピーク流量を 9,700m³/s、このうち綾南ダム、綾北ダム、岩瀬ダム等と併せ流域内の洪水調節施設により 1,000m³/s を調節して計画高水流量を 8,700m³/s とする「大淀川水系河川整備基本方針」が策定されています。

現在は、大淀川本川、支川の小松川、深牟川、山内川、山田川、花の木川、及び横市川において河川改修事業を実施中です。

これまでに述べてきたとおり、大淀川では多くの災害を受け、治水に対する努力を続けてきました。これまでに受けた災害と治水の変遷を整理しますと表 1.2.1, 2 になります。

## 表 1.2.1 大 淀 川 の主 な洪 水 と洪 水 被 害

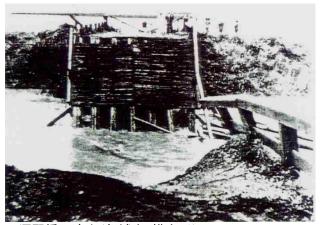
衣   .2.				
発生年月日	原因	柏田地点 流量 (m³/s)	被害状況	
昭和11年7月22日~23日 (1936)	暴風雨	不明	※死者3名、負傷者2名、家屋全壊6戸、家屋半壊7戸、家屋流出7戸、家屋浸水5,173戸	
昭和 18 年 9 月 18 日~20 日 (1943)	台風 26 号	不明	※死者 114 名、負傷者 161 名、行方不明者 1 名、 家屋全壊 567 戸、家屋半壊 1,165 戸、家屋流出 508 戸、床上浸水 9,361 戸	
昭和24年8月14日~16日 (1949)	台風9号	不明	※死者7名、負傷者15名	
昭和29年9月10日~13日 (1954)	台風 12 号	不明	死者 5 名、負傷者 10 名、家屋全壊 72 戸、家屋半壊 215 戸、床上浸水 3,173 戸、床下浸水 5,303 戸	
昭和46年8月26日~30日(1971)	台風 23 号	5,360	負傷者4名、家屋全壊4戸、家屋半壊6戸、床上浸水294戸、床下浸水1,083戸	
昭和57年8月24日~27日 (1982)	台風 11 号	7,140	家屋半壊 18 戸、床上浸水 264 戸、床下浸水 463 戸	
平成元年7月24日~8月3日 (1989)	台風 11 号	6,130	家屋半壊 62 戸、床上浸水 79 戸、床下浸水 323 戸	
平成2年9月27日~29日 (1990)	台風 20 号	6,260	行方不明者1名、負傷者5名、家屋全壊2戸、家屋半壊57戸、床上浸水1,187戸、床下浸水1,908戸	
平成5年7月31日~8月2日 (1993)	前線	7,020	死者 1 名、負傷者 2 名、家屋全壊 12 戸、家屋半壊 2 戸、床上浸水 771 戸、床下浸水 784 戸	
平成9年9月14日~16日 (1997)	台風 19 号	6,880	死者 2 名、負傷者 3 名、家屋全壊 1 戸、家屋半壊 24 戸、床上浸水 401 戸、床下浸水 584 戸	
平成 16 年 8 月 29 日~30 日 (2004)	台風 16 号	6,660	負傷者7名、家屋全壊2戸、家屋半壊5戸、家屋流出7戸、床上浸水164戸、床下浸水203戸	
平成17年9月4日~6日 (2005) 速報値	台風 14 号	9,230	家屋全壊 908 戸、家屋半壊 2,147 戸、床上浸水 3,634 戸、床下浸水 985 戸	

※宮崎県下の被害



■流失した二厳寺橋(都城市)

■流失寸前の赤星橋(都城市)



■源野橋の流失(都城市・横市川)





■右岸大塚町付近の浸水状況(宮崎市)



■流失した高松橋(宮崎市)

写真 1.2.1

昭 和 29 年 9 月 洪 水



■下小松地区の浸水状況(宮崎市)



■下小松地区の浸水状況(宮崎市)

写真 1.2.2

昭和 57年 8月洪水



■下飯田地区の浸水状況(宮崎市高岡町)



■花見地区左岸の浸水状況(宮崎市高岡町)



■小松川地区(霧島4丁目)の浸水状況(宮崎市)



■鶴田川地区(城ヶ崎)の浸水状況(宮崎市)

写真 1.2.3

平成 5 年 8 月 洪水



■西町地区の浸水状況(都城市)



■樋渡橋左岸の浸水状況(都城市高崎町)



■宮水流地区の浸水状況(宮崎市高岡町)



■瓜田地区の浸水状況(宮崎市高岡町)



■福島地区の浸水状況(宮崎市)



■大塚地区の浸水状況(宮崎市)

写真 1.2.4

平成 9 年 9 月 洪水



■川東地区の浸水状況(都城市)



■甲斐元地区の浸水状況(都城市)



■五町地区の浸水状況(宮崎市高岡町)



■小山田地区の浸水状況(宮崎市高岡町)



■田吉地区の浸水状況(宮崎市)



■吉野地区の浸水状況(宮崎市)

写真 1.2.5

平成 16 年 8 月 洪 水



■金田地区の浸水状況(都城市)



■有水地区の浸水状況(都城市高城町)



■内山地区の浸水状況(宮崎市高岡町)



■麓地区の浸水状況(宮崎市高岡町)



■瓜生野地区の浸水状況(宮崎市)



■下小松地区の浸水状況(宮崎市)

写真 1.2.6

平成 17年 9月洪水

## 表 1.2.2

## 大 淀 川 における治 水 事 業 の沿 革

<b>双 1.2.2</b>	大				
西暦	年 号	計画の変遷等	主な事業内容		
1921 1927	大正 10 昭和 2	・宮崎県により改修に着手 ・大淀川下流、本庄川下流の直轄改修 工事に着手	・宮崎市周辺の築堤		
1943 1949	昭和 18 昭和 24	<ul> <li>・ 台風 26 号による大洪水</li> <li>・ 大淀川上流の直轄改修工事に着手</li> <li>・ 計画高水流量</li> <li>樋渡 3,000 m³/s</li> </ul>	<ul> <li>・全川にわたる築堤・掘削</li> <li>・萩原川の改修</li> <li>(昭和 26 年度~昭和 37 年度)</li> <li>・庄内川(宮崎県知事管理区間)の改修</li> <li>(昭和 26 年度~昭和 61 年度)</li> </ul>		
1953	昭和 28	・総体計画の策定 ・計画高水流量 樋渡 4,000m³/s 宮崎 7,000m³/s			
1954	昭和 29	<ul> <li>台風 12 号による大洪水</li> </ul>	<ul> <li>綾南ダム完成(昭和33年)</li> <li>綾北ダム完成(昭和35年)</li> <li>年見川の改修昭和35年度~平成3年度)</li> <li>三名川の改修昭和39年度~平成元年度)</li> </ul>		
1964	昭和 39	<ul> <li>総体計画の策定</li> <li>計画規模 1/70</li> <li>基本高水のピーク流量 宮崎 7,500m³/s</li> <li>計画高水流量 宮崎 7,000m³/s</li> </ul>			
1965	昭和 40	・大淀川水系一級河川に指定 ・大淀川工事実施基本計画の策定 (総体計画を踏襲)	<ul> <li>・八重川(宮崎県知事管理区間)の改修 (昭和40年度〜昭和57年度)</li> <li>・大谷川の改修昭和40年度〜平成3年度)</li> <li>・梅北川の改修昭和41年度〜昭和62年度)</li> <li>・岩瀬ダム完成(昭和42年)</li> <li>・高崎川(宮崎県知事管理区間)の改修 (昭和42年度〜昭和51年度)</li> <li>・飯田川の改修昭和45年度〜昭和60年度)</li> </ul>		
1974	昭和 49	・八重川直轄河川に編入	<ul> <li>・始続日の改修昭和48年度~平成2年度)</li> <li>・新大谷川水門完成(昭和49年)</li> <li>・新別府川の改修 (昭和49年度~平成11年度)</li> <li>・青柳排水機場暫定完成(昭和52年)</li> </ul>		
1982	昭和 57	・ 台風 11 号による大洪水	・ 山内川の改修昭和58年度~平成10年度)		
1993 1997	平成 5 平成 9	・前線による大洪水 ・台風 19 号による大洪水	・ 瓜田ダム完成(平成 10 年) ・ 田代八重ダム完成(平成 12 年)		
2003	平成 15	<ul> <li>大淀川水系河川整備基本方針の策定</li> <li>計画規模 1/150</li> <li>基本高水のピーク流量 柏田 9,700m³/s</li> <li>計画高水流量</li> </ul>	・青柳排水機場完成(平成 13 年)		
2005	平成 17	柏田 8,700m³/s ・台風 14 号による大洪水 ・河川激甚災害対策特別緊急事業の採択			